

がっかり【副】^①失望で気がゆるみすっかり元気がなくなる様子。**例**そつがっかりするなよ。
がっこ【名】^①「活字」の略。^②「がっこ」の略。
がつき【学名】^①「活字」の略。^②「がっこ」の略。
がつき【学名】^①「活字」の略。^②「がっこ」の略。

がつき【学名】^①「活字」の略。^②「がっこ」の略。
がつき【学名】^①「活字」の略。^②「がっこ」の略。

がつき【学名】^①「活字」の略。^②「がっこ」の略。
がつき【学名】^①「活字」の略。^②「がっこ」の略。

がつき【学名】^①「活字」の略。^②「がっこ」の略。
がつき【学名】^①「活字」の略。^②「がっこ」の略。

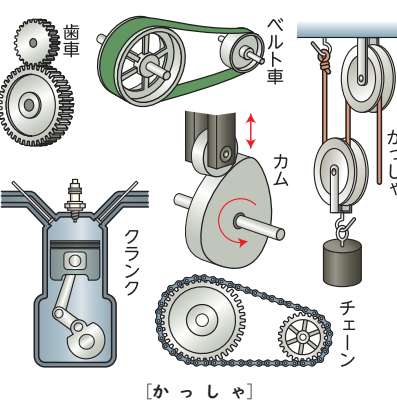
がつき【学名】^①「活字」の略。^②「がっこ」の略。
がつき【学名】^①「活字」の略。^②「がっこ」の略。

か【動】^①「か」の略。^②「か」の略。
か【動】^①「か」の略。^②「か」の略。

か【動】^①「か」の略。^②「か」の略。
か【動】^①「か」の略。^②「か」の略。

か【動】^①「か」の略。^②「か」の略。
か【動】^①「か」の略。^②「か」の略。

か【動】^①「か」の略。^②「か」の略。
か【動】^①「か」の略。^②「か」の略。



か【動】^①「か」の略。^②「か」の略。
か【動】^①「か」の略。^②「か」の略。



か【動】^①「か」の略。^②「か」の略。
か【動】^①「か」の略。^②「か」の略。

か【動】^①「か」の略。^②「か」の略。
か【動】^①「か」の略。^②「か」の略。

か【動】^①「か」の略。^②「か」の略。
か【動】^①「か」の略。^②「か」の略。

か【動】^①「か」の略。^②「か」の略。
か【動】^①「か」の略。^②「か」の略。

か【動】^①「か」の略。^②「か」の略。
か【動】^①「か」の略。^②「か」の略。

か【動】^①「か」の略。^②「か」の略。
か【動】^①「か」の略。^②「か」の略。

か【動】^①「か」の略。^②「か」の略。
か【動】^①「か」の略。^②「か」の略。

か【動】^①「か」の略。^②「か」の略。
か【動】^①「か」の略。^②「か」の略。

【縮減】（縮減）注視。

じゅくじょ【熟字】（名）二字以上の漢字がむすびで一つの単語になっている漢語。「学校」がむすびで熟語。

じゅくじょ以上【熟字訓】（名）ある語を漢字で書くこと。例「熟字訓」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

じゅくじょ以上【熟字】（名）二字以上を合わせた特別の読み方。例「熟字」。

大阪城を建てたのは誰だれか？

主語が動作主で表れない表現のいろいろ。大阪城を建てたのは誰だ？というクイズがある。豊臣秀吉はだれ？と答えたら、大工さんだよと言われてしまった。たしかに、実際に城を建てる作業をしたのは大工さんであって、秀吉は正解に言うならば、秀吉が大工さんに大阪城を建てさせたのである。このような言いかたは他にもある。たとえば、「田中さんは受験願書に貼るための証明写真を写真スタジオで撮った」「明日はパーティーがあるので鈴木さんは美容室へ髪を切りに行った」「小川さんはパーティでスボの文を直した」「市長は川に新しい橋を架げた」などである。どれも、実際にその動作をする人が主語でなくともよい。ただし、こういう言いかたができるためには、次の三つの条件がある。

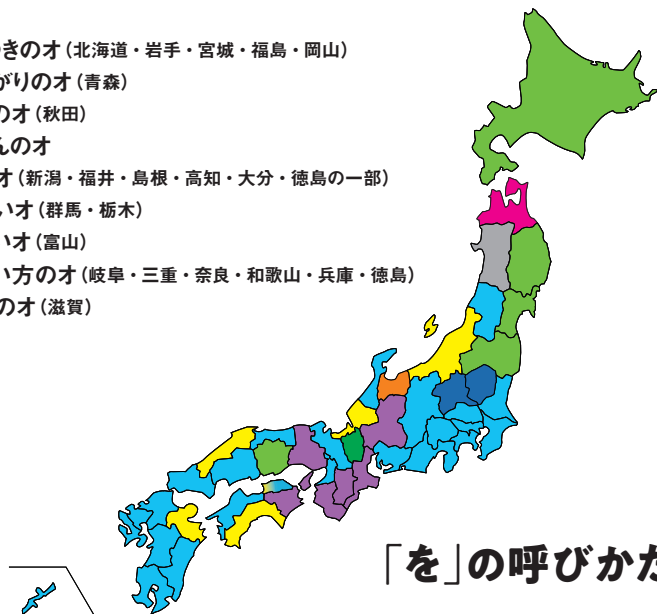
- 1 専門的な技術が必要な動作であること。
2 主語の人物が、①の動作ができる専門家にたんなる。その動作をしてもよいこと。
3 その動作が、ある結果を残すためのものであること。

たとえば、「市長は部屋をきれいにした」と言えはふつうに掃除をするという意味で、ふつうの掃除には専門的な技術は必要でないため(1)、市長が自分でしたことになる。だが、「市長は二十階建ての庁舎の窓を全部きれいに」と言えは、専門家にたのんでやってもらったのだと理解できる(1)(2)。もう一つ、「市長はフランス料理のフルコースを作った」と言っても、市長は自分で作った意味では料理を作る動作は食べるためであり、結果を残すためたとは考え「証明写真」「切った髪」「先に挙げた例では「靴」「証明写真」「切った髪」のように文になつたスボ(1)「橋」が動作の結果として残る。

学校方言 —— 「を」の呼びかた

オと発音する二つのかな「お」と「を」を区別する時に、「を」を「ウォ」と発音して区別することもありますが、学校現場ではこの「を」を特定の呼びかたで区別しているところも多く、呼びかたは地域によってさまざまです。

- くつつきのオ (北海道・岩手・宮城・福島・岡山)
- 腰まがりのオ (青森)
- かぎのオ (秋田)
- わをんのオ
- 下のオ (新潟・福井・島根・高知・大分・徳島の一部)
- 重たいオ (群馬・栃木)
- 小さいオ (富山)
- 難しい方のオ (岐阜・三重・奈良・和歌山・兵庫・徳島)
- わ行のオ (滋賀)



「を」の呼びかたは？

関東・中部を中心に四国、九州まで広い範囲で使われているのが「わをんのオ」です。この三つのかなをまとめて並べている五十音図に影響された呼びかたです。

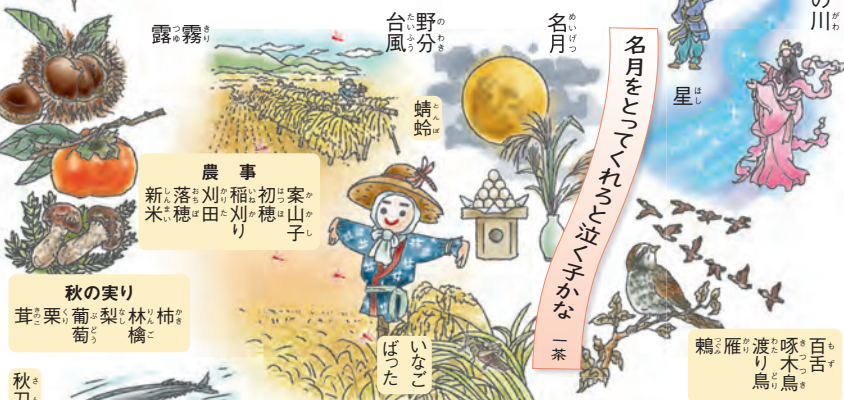
文字の形に注目した呼びかたとしては、青森の「腰曲がりのオ」や秋田の「かぎのオ」があります。近畿地方で広く使われている「難しい方のオ」も、「を」が小学生にとって書きにくい形ということであればこのタイプに含まれます。

「を」が「○○を」のように助詞として使われることに注目した呼びかたが「下のオ」で、中国・四国を中心に各地に見られます。「くつつきのオ」も同じ発想で、北海道から東北地方に広がっています。「○○を」と語の下に位置するため、群馬では「重たいオ」と呼ばれます。

富山に限定される「小さいオ」は、「大きい」をかなで「おおきい」と書くため、その「大きい」の「お」ではない方という発想からだと思われます。

あいさつ (手紙の)・季語 (季語は代表的なものだけに、「春の月・夏草・秋風・寒雀」のことば)・季語 (季語は代表的なものだけに、「春の月・夏草・秋風・寒雀」のように、季節の名を含んでいるものはとり上げていない。)

十月 スノートの日 (第2月曜) 紅葉狩り	九月 お月見 敬老の日 秋分の日 第3月曜 (23日ごろ)	八月 山の日 終戦記念日 (15日)	暦
寒露 霜降 (23日ごろ)	白露 秋分 (23日ごろ)	立秋 処暑 (23日ごろ)	節気
菊の節句 長月(旧九月)	十五夜 お彼岸 (7月)	葉月(旧八月) 七夕(旧七月) 七瀬(旧七月) 盂蘭盆会	旧暦



秋刀魚 鮭 水澄む 日本人は、季節ごとの水を感じ、春の「水温む」に対して、秋には「水澄む」ととらえた。夏の「出水(洪水)」、冬の「水枯る」もある。

時候のあいさつ (手紙のことば)

残暑きびしきおりから…
暦の上では秋になりましたが、…
このころは少しずつ涼しさが感じられますが、…
このころは少しずつ涼しさが感じられますが、…
暑さもつうらぎ、しのぎよい季節になりました。

◆中秋・秋冷
天高く馬肥ゆる秋になりました。
朝夕はめづり涼しくなり、…
二十日も無事にすぎ、…
虫の音も夜ごとにさびしさを増し、…
名月はあいにく曇りで見られませんが、…
◆晩秋・夜長(よなが)
灯火親しむの候、…
いちよの葉は鮮やかに色つき、…
秋もはや半ばを過ぎ、…
あちこちで菊の展示会も催され、…
秋のとり入れもすつかり終わり、…

秋の花
尾枯萩、秋萩、秋桜、朝顔、花梨、桜、顔

虫の音
蟋蟀、鈴虫、きりぎりす